

校長先生の初恋物語

第48話 ジャイアンのいじめ

ジャイアンはいじめっこでした。標的になっていたのは、いつもきのこ君でした。きのこ君はとてもやせていました。そして、最初の頃のとっくんのように、気弱な男の子でした。

とっくんが気弱だった頃には、ジャイアンもとっくんをいじめたこともありましたが、ダンプさんがとっくんと仲良くなったことで、ジャイアンはとっくんには何もできなくなりました。ジャイアンは完全に、きのこ君だけをいじめていました。きのこ君は、ジャイアンにいくらいじめられても、何も言わずに、ジャイアンの後ろをいつもくっついて歩いていました。見ていてとてもかわいそうでした。

「おい、きのこ。いっしょにキャッチボールやろうぜ。」

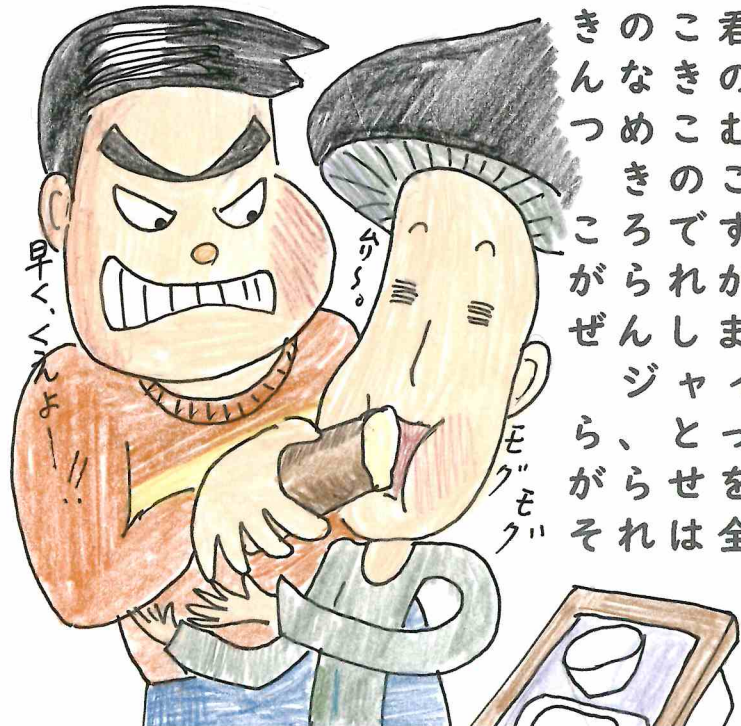
休み時間はだれもジャイアンと遊びません。ですから、ジャイアンは、無理矢理きのこ君をさそいます。きのこ君はみんなとドッジボールをやりたくても、がまんして、ジャイアンと、キャッチボールをしなくてははいけませんでした。

「おい、きのこ。給食なんて早く食べちゃえよ。」

きのこ君は食べるのがおそいのです。そんなきのこ君の口の中に、むりにパンをつめこむところも見ることがあります。

きのこ君のすごいのは、がまん強いところです。ジャイアンからのそんないやがられがあっても、悲しい顔なんてぜんぜんしません。

ジャイアンのとなりの席になってから、とっくんはジャイアンからまたいやがらせをうけるかもと心配しましたが、それは全くありませんでした。足長君を

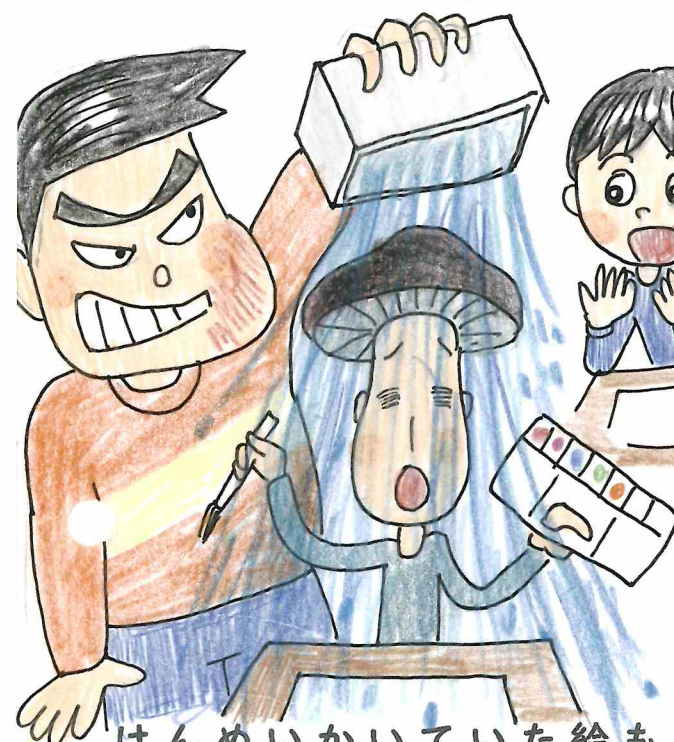


うたがってしまって、足長君にまだあやまることができなくて、仲のよかったダンプさんもとっくんからはなれてしまって、ジャイアンは再びとっくんをいじめてもよさそうですが、それはありませんでした。

ある日の図工の時間です。その日は絵の具を使って色ぬりをしていました。とっくんの目の前がきのこ君です。きのこ君は絵が、とっても上手なんです。によるひげ先生もほめていました。

「きのこ君の絵は、とってもきれいだね。この絵が完成したら、クラス代表でコンクールに出せるよ。もう少しで完成だね。最後までがんばりなさい。」

その言葉に、きのこ君はうれしそうでした。うれしさを表に出さないきのこ君は、めずらしく、にやっとなりました。



それが気に入らないのか、とっくんのとなりのジャイアンは、とっぜんきのこ君に近づいてきました。何をするかは、とっくんにはなんとなく分かりました。ジャイアンは、汚れた絵の具を洗うためのバケツを手にとっていたのです。バケツの中は、絵の具がまざった、汚い色水が入っています。ジャイアンは、きのこ君のところまで来ると、きのこ君に向かってその汚い水をかけてしまったのです。汚い色水は、きのこ君をずぶぬれにしました。きのこ君がいっしょう

けんめいかいていた絵も、いっしゅんでだいなしになりました。ジャイアンがしたことは、とてもゆるされることはありません。とんでもないことです。でも、とっくんは、思ってしまったんです。

「ジャイアンは、悪くないよ。」

つづく

次回予告 ジャイアンは悪くない